

団体名	静岡県留学生等交流推進協議会						
事業名	世界に発信！静岡のこんなもの、あんなもの～アフターコロナに向けて～						
実施期間	令和3年6月～令和4年1月						
場 所	掛川市、島田市、浜松市、静岡市						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	143		53	8	12		216名

<実施内容>

留学生が静岡県を知り、勉学の地として愛着を持って留学生活を送ることを目指し、日本人学生とともに県内の産業や歴史等を訪れ、それぞれSNS等でレポートする。一回目は静岡県が誇るお茶の生産地、掛川市、島田市を訪問し、茶草葉農法について学んだ。二回目は、ウミガメの産卵地となっている浜松市中田島砂丘で海岸清掃の後、ウミガメを放流した。清掃してみると改めてゴミの多さに驚き、日常生活を振り返る機会を得た。三回目は、静岡市の久能山東照宮を初詣で訪れ、握り寿司作り体験をして、日本の文化への理解を深めた。

<記録写真>



茶草葉農法は自然に優しいけれど、生産者には大変な作業。今のお茶の生産について説明を受け、この後抹茶ドリンクを作りました。



ウミガメや他の生物にとって危険そうな大きいビニールやストローなどプラスチック製品が捨てられているのを見て、マイクロプラスチックの問題が本当に深刻であることが実感できました。



久能山東照宮で初詣。石段を上るのは大変でしたが、好天に恵まれきれいな駿河湾と富士山を楽しめました。

<参加者からのコメント>

崔朱希さん(韓国) / Ms. CHOI JU HUI (Korea)

ただの掃除ではなくて、絶滅危惧種であるウミガメについて説明も聞き、守るために何が必要かについても分かりとても有意義な時間でした。特に、小亀を観察したあと放流する時は、何回も波が来てもずっと海へ歩いていくカメたちから生命の強さを感じて、これまで動物に多く関心がなかった自分には初めて大きく感動しました。亀の特徴や放流の原理も学び、これから海で小亀を見たときも対処法も身につけました。

富本滉平さん(日本) / TOMIMOTO KOHE (Japan)

お茶という日常に欠かせない文化を守るために、利用層を広げるための事業は大切だと感じた。単なる嗜好品で終わらせず、楽しむための工夫を取り入れるのは素晴らしいと感じた。